

研究に関するお知らせ

【胃腫瘍ESD症例における下部消化管内視鏡検査の有用性についての検討】

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院 消化器内科では、以下にご説明する研究を行います。

この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんのでご安心ください。

■研究目的・方法

胃癌と診断された方は通常よりも大腸癌を発症しやすいため、胃癌の外科的治療を行う際には大腸癌やその前癌病変の有無を確認する目的で大腸カメラを行うことが確立されています。しかし早期胃癌に対して内視鏡治療を行う際に、施設によっては必ずしも大腸カメラを施行していないのが現状です。

本研究では、当院での診療記録を調査することで胃腫瘍(早期胃癌とその前癌病変である胃腺腫)に対して内視鏡治療(ESD:内視鏡的粘膜下層剥離術)を行った症例において、大腸カメラを施行することに対する有用性を明らかとします。また、胃腫瘍の内視鏡治療を受ける患者様における、大腸腫瘍の危険因子も明らかとします。これらの結果により、大腸癌の早期発見とそれによる胃腫瘍患者様の予後の延長に繋がることが期待されます。

■研究期間

理事長承認日～2023年3月31日

■研究の対象となる方

- ・2014年4月～2020年12月までの間に、当院で胃腫瘍もしくは早期胃癌と診断してESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)を施行した患者様のうち、ESDの前後1年以内に大腸カメラを施行した方。
- ・2018年1月～12月に便潜血陽性を契機に大腸カメラを施行した方。

■研究に用いる試料・情報の種類

上記の対象期間中に診療録に記録された診療情報(生活歴、既往歴、併存症、腫瘍占拠部位、病理診断、等)を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

■利益相反について

利益相反の状況についてはNCGM利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関する研究全体及び研究者個人として申告すべき利益相反の状態はありません。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き等

あなたのご希望により、この研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。

ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。

ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■研究責任者:

国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院 消化器内科 池上友梨佳

■お問い合わせ先

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院

千葉県市川市国府台 1-7-1

047-372-3501

研究責任者 国府台病院 消化器内科 池上友梨佳

■掲示場所・交付場所

消化器・肝臓内科 診察室および外来窓口